〈ピツコロさん〉

村山籌子

青空文庫

1

町の鴉（からす）　「ピツコロさん。こゝは町の真中（まんなか）ですよ。泣くんなら、横丁へはいつてお泣き。」

ピツコロ　「よけいなことを言ふな。だけど皆（みんな）が俺（おれ）の顔をみて笑つてる。少し恥かしいな。では、横丁へいつて泣かう。」

2

ピツコロ　「なほ悲しくなつて来た。どうしてこんなに涙がでるのかしらん」

横丁の猫　「ピツコロさん。小さいおぢいさん。おとなのくせにみつともないよ。なくなら、誰（たれ）もゐない所でおなき。わたしまで、泣きたくなるよ。へん（くすりと笑ふ）。」

ピツコロ　「うん。さういはれゝばさうだな。ぢや、あつちへ　ゆかう。」

3

百姓　「今年はお米が沢山とれて何よりだ。これも神様のお恵みだよ。」

百姓の妻　「さうだよ。だけどお前さん。今年ばかりよくても、来年悪ければつまんない。私はさう思ふと、いやになるよ。おや。誰か泣いてるよ。」

百姓　「お前はいつもそんなつまらないことをいふね。不信心者だよ。」

ピツコロ　「これはしまつた。誰かゞ来た。又追つ払はれるだらうな。」

百姓　「おい。お待ちよ。」

ピツコロ　「すみませんな。私、今、泣いてをりますので。」

百姓の妻　「悲しいんかい。」

ピツコロ　「えゝ。悲しくて堪りません。」

百姓　「どう言ふわけだよ。」

ピツコロ　「さつぱり分りませんな。町の鴉だの、横丁の猫だのに追つ払はれましたよ。」

百姓の妻　「さうでせうともね。お前さんのやうな年寄がないてるとをかしいからね。」

百姓　「だけど、何か、わけがあつて、泣いてるんだらう。さうだらう。」

ピツコロ　「さうでせうな。」

百姓　「さうでせうなとは何だ。よくお考へ。」

ピツコロ　「わかるでせうかな。」

百姓　「きつとわかるよお考へ。」

ピツコロ　「はてな。けさ、家をとびだしたと。隣の桶屋のやかましい音が、しやくにさわつ

たんだつけな、実に、しやくにさはる。考へごとも何にもあつたもんぢやない。はい。私は、年寄の学者ですからな。それから、町の真中で新しい家を持つてあるいてる、家売の象から、家を一軒買つたつけな。それを、静かな町のはづれへ建てたんだつけね。そして、そのなかへはいつて、本をあけた——と、これはしまつた。大変だよ。わかつたよ。なぜ　私が泣いてるわけがわかつたよ。ちよつと、一しよにきておくれ。」

百姓の妻　「お前さん気がちがつたのかい。」

ピツコロ　「正気です。今、やつと正気にかへつたんです。」

百姓の妻　「私は、穀物がくさるやうな気がいて心配だから、こゝで番をしてるよ。」

百姓　「馬鹿をいふな。おいで。」

4

百姓の妻　「どこだよ。お前さんのうちは。」

ピツコロ　「はてな、どこだつけな。私は少し目がうすいんでな。」

百姓　「これぢやないかな。新しい家だよ。」

ピツコロ　「あゝ。これだ。これだ。どうぞおはいり下さい。」

百姓の妻　「へえ。何ですかい。」

ピツコロ　「おはいり下さいと申すのに。（その時、桶をたゝく音が、隣からひゞいてくる。）これは大変。又、涙がでゝくる。」

百姓　「お前さん。そゝつかしやだね。あゝ、又、桶屋の隣へ家をもつて来たね。」

ピツコロ　「あつ。さうだつたよ。お前。それだから、泣いてたんだよ。さうだつたよ。目がうすくて、せつかちでな。」

百姓　「それは、お前さんのつみだね。」

ピツコロ　「さうですよ。さうですよ。」

百姓　「それがわかれば泣くことなんぞない。手つだつてあげるから、早速ひつこしをなさい。」

ピツコロ　「よくわかりましたよ。もう、ほら、こんなに、にこ〳〵笑つてますよ。」

百姓の妻　「ほんとに私しも楽しくなつたよ。」

5

ピツコロ　「私しはこの家の主人だよ。」

百姓　「さうですよ。なか〳〵よくなりましたね。」

町の鴉　「おや、ピツコロさん、こゝですか。時々遊びに来ますから、顔を覚えてゝ下さい。」

横丁の猫　「私も来ますよ。」
ピツコロ　「これでやつと楽しくなつたよ。おや皆来たまへ、もう泣かないから。」
百姓　「今年は豊年で、こんな嬉しいことはないよ。」
百姓の妻　「さうだよ。来年も働かうね。」
ピツコロ　「その時は、私もお助けしような。では。さよなら。」
百姓
「さよなら年寄の学者さん。」
百姓の妻

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系　第二六巻」ほるぷ出版
　1978（昭和53）年11月30日初刷発行
底本の親本：「子供之友」婦人之友社
　1924（大正13）年11月
初出：「子供之友」婦人之友社
　1924（大正13）年11月
※〈〉付きの表題は、作品の冒頭をとって、底本編集時に与えられたものです。
入力：菅野朋子
校正：noriko saito
2013年7月5日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

〈ピツコロさん〉

村山籌子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/